6-②

実践例(2)

NPOにおける学習支援の取組

密山　和香子
NPO法人青少年自立援助センター
定住外国人支援事業部・学習支援講師

【発行】
国立障害者リハビリテーションセンター　企画・情報部
発達障害情報・支援センター

本研修の流れ

1. YSCグローバル・スクールについて
2. 外国につながりのある、特別な支援が必要な子どもたちの学習支援の事例
3. 学習支援の実践のポイント

1

YSCグローバル・スクールについて

YSCグローバル・スクールの活動紹介(1/2)

- NPO法人青少年自立援助センターが運営
- 国籍問わず、両親またはそのどちらか一方が外国出身者である、外国につながりのある子どもたちに専門家による日本語教育・学習支援機会を提供することを目的として、2010年より東京都福生市(ふっさし)に教室を開設

YSCグローバル・スクールの活動紹介（2/2）

- 教室での対面支援と並行し、2016年よりオンラインを通じて全国へ日本語教育機会を提供

自治体連携実績(2025年時点):

三重県(2020年度～)

愛知県 名古屋市(2022年度～2023年度)

山口県(2023年度～)

東京都 羽村市(2023年度～)

和歌山県(2024年度～)

長野県 安曇野市(2024年度～) 等

YSCグローバル・スクール概要

（2025年現在）

外国につながりを持つ子ども・若者のための教育支援事業（2010年度～）

■**対象者層**：6歳以上～高校進学を目指す若者（教育支援）
15歳以上～生活者（定着・就労支援）

■**利用者数**：約400名

■**利用形態**：通所（東京都福生市）5割、オンライン5割

■**ルーツ**　：フィリピン、中国、ネパール、ペルー、ブラジル、ギニア、
アフガニスタン、ミャンマーなど

■**家庭状況**：経済的に困難な家庭・ひとり親家庭 約3割
内部奨学金、自治体補助等による減免・無償化

（奨学金のための資金はクラウドファンディングや寄付金などを活用）

「誰ひとり、取り残さない」ために、
あらゆる教育ニーズ（日本語、基礎学力、進学、
不登校、発達障害、居場所・・・）に対応

日本語初級レベル
（200時間）

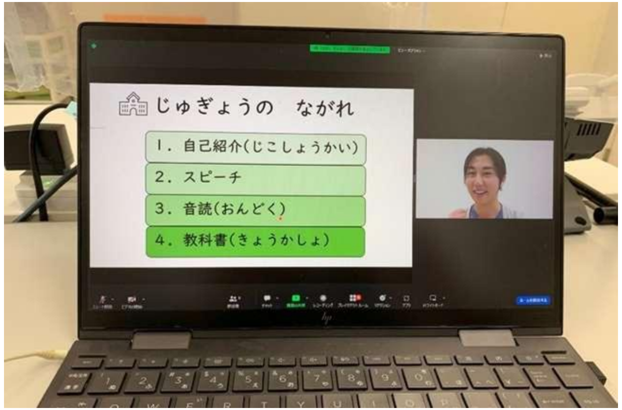
高校進学準備

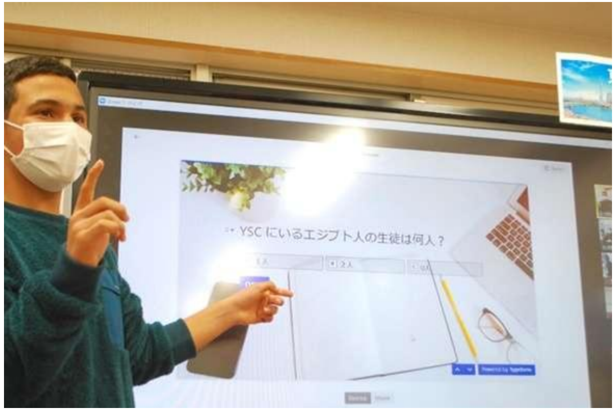
フリースクール
（通学準備）

小学生学習支援

発達障害の
子ども・若者

中学生学習支援





外国人の子　8千人学校に

学校に通っていないかもし
去年5月時点で8183人いる。
ました。なぜ、学校につな
わからなかったりする子が
海外にルーツがある子ども
PO法人青少年自立援助
んに聞きました。

っているかの確認を
の、わからなかった子が6
5人いました。また、教育委
会が状況をつかんでいないこ
730人います。あわせて
83人が、学校に通っていな

と雑談をする外国人の子どもたち
れも6月22日、東京都福生市のY
グローバル・スクール

2

外国につながりのある、特別な支援が必要な子どもたちの学習支援の事例

YSC Global School
YSCグローバル・スクール

特別な支援が必要な子どもたち

- YSCグローバル・スクール(以下GS)では、特別支援クラス「えじそんクラス」を2018年より開講。個別または少人数制で、通所・オンラインあり
- 通常のクラスの中でも、特別な支援が必要な子どもたちがいる
- 出身国または日本で発達障害の診断が出ているケースもあれば、
学習に困難が生じているものの、その要因が発達の特性によるものか、
日本語習得上の課題か、判断が難しいがケースもある

Aさんの事例

支援期間:小3～小4まで

- 8歳時に来日。母国で自閉スペクトラム症と診断あり
- 母親とは母語、義理の父親とは日本語と英語、学校では日本語を使用
- 小学校では特別支援級に在籍。日本語指導はなし
- 物事へのこだわりが強く、場面の切り替えや集中の持続が困難
- 日本語の難しさや文化の違いで学校に馴染めず、登校渋りをするように

Aさんへの支援とその後

- 小3時から週に2回程度、学校の出席振替でGSに通所
- 日本語学習教材で、会話と漢字学習の支援。算数は計算は学年相当のもの、文章題は日本語を支援しながらできる範囲で取り組む
- 毎クラス、学習の見通しを本人と一緒に立て、スモールステップで複数メニューを少しずつ進めるカリキュラム
- 小4時には会話も少しずつ上達し、学校にも馴染めるようになり楽しく登校するように

→日本語支援と特別支援教育の進め方の融合

事例紹介　Bさん　　　　　支援期間：小4～高校進学まで

- 日本生まれ・育ち。学校では日本語、家庭では母語を使用
- 小3までは通常学級に在籍。日本語の日常会話は問題ないため、日本語指導なし
- 小3途中から学習に遅れが目立ち、とくに国語と社会の学習や作文が苦手
  →日本語での抽象概念の理解が困難
- 知能検査（日本語で実施）を受け、知能指数が平均値を大きく下回る。小4から特別支援学級へ

Bさんへの支援とその後

- 学校では特別支援学級に在籍し、GSの放課後クラスに通所。
  GSでは文章読解や漢字、算数は学年相当のものに取り組む
- 小6時に日本語・母語の両言語併用で再び知能検査を実施。
  2年前より知能指数が20ほど高い数値に
  →二言語で補完し合って思考している
- 中学校からは通常学級に戻り、学校で日本語指導も受けられるようになった。
  GSへの放課後通所も継続
- 全日制高校の普通科に合格

Cさんの事例（1/2）　支援期間：中1～高校進学まで

- 来日時は13歳、日本語学習経験なし。家庭では母語を使用
- GSにて日本語を学習。初期指導時から会話・読み書きすべての習得スピードが同年代に比べ著しく遅い
- 算数も来所当初は小学1年生相当の計算で手が止まる状態
- 表情の変化が少なく、ぼんやりしていることが多かった
- 出身国では、都市部ではなく地方の山村部で生活
  →日本のカリキュラムや学習スタイルとの大きな違い

Cさんの事例(2/2)　支援期間:中1～高校進学まで

- 「呼びよせ」での来日
  保護者が来日前の学習状況を直接把握しておらず、ヒアリングできる情報も限られる
- 発達に何らかの特性があるのか、来日前の学習環境と大きく異なり、変化に適応できず学習が進まないのか、見立てが難しい

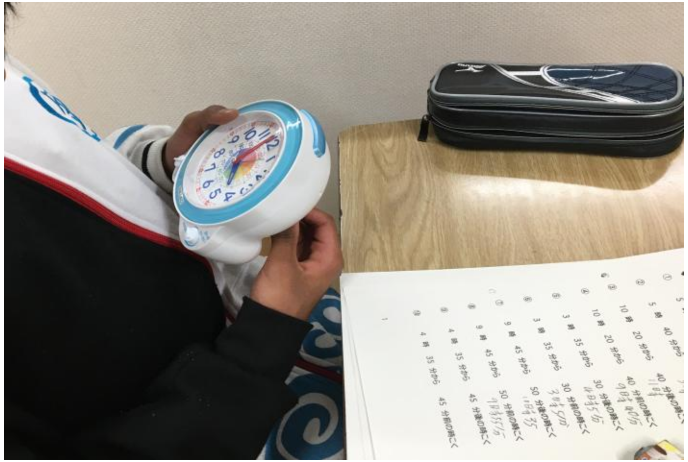
Cさんへの支援とその後

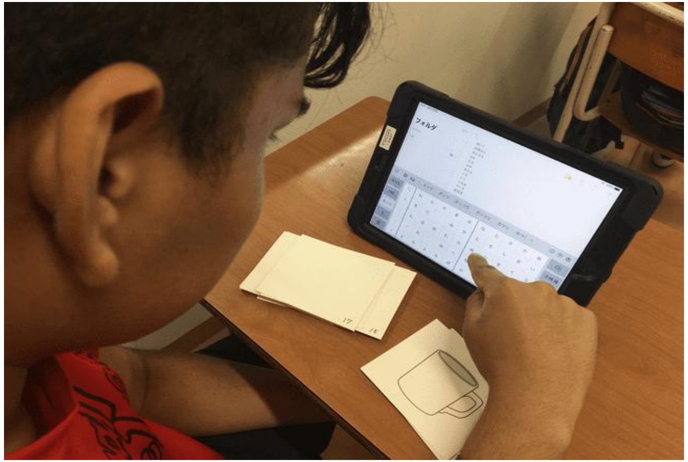
- 中学校では特別支援級を勧められたが、適切な対応が難しく、通常学級に在籍して出席振替でGSに通所

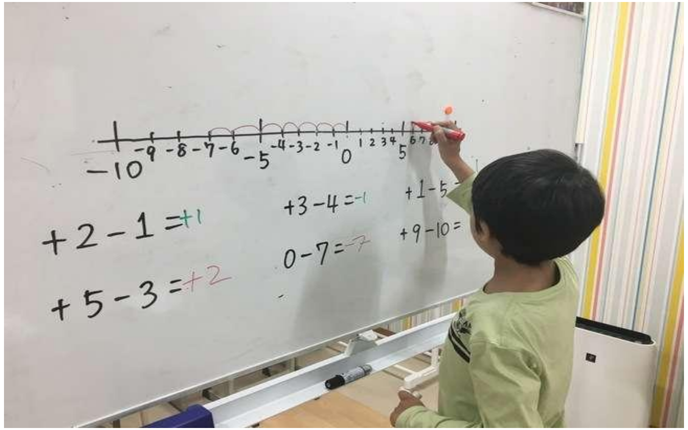
- スモールステップで基礎を固めていく支援方針に
  中1：週5GS通所。日本語と小学校レベルの基礎学習
  中2：週2学校/週3GS通所。少しずつ学校生活に慣れる
  中3：週5学校/週2,3GS放課後へ。学年相当の学習にも一部挑戦

- GSのイベントに積極的に参加。友達ができて笑顔が増える

- 定時制高校に進学






+2−1=+1
+3−4=−1
+1−5
0−7=−7
+9−10=
+5−3=+2

使用のめやす
小学1年生以上
読む力トレーニング
基本編
OHISAMA
おひさま
[はじめのいっぽ]
First Steps
子どものための日本語
Japanese Textbook for Multilingual Children
ステップアップ
算数文章題
イメージトレーニング
ワークシート1
たし算・ひき算

外国につながりのある、特別な支援が必要な子どもたちの学習状況の背景

① 発達の特性による困難

② 日本語習得上の困難

③ 来日前の学習歴・学習環境の違い

④ 外国につながりのある子ども特有の生育環境

これら複数の背景のかけ合わせで、一人一人の学習状況が生まれる

3

学習支援の実践のポイント

YSC Global School
YSCグローバル・スクール

学習支援の実践のポイント

これまでの経験をふまえた学習支援の実践のポイント

① 子どもたちと接する上での支援者の心構え

② アセスメントについて

③ 学習支援方法・環境の工夫

④ 保護者対応について

① 子どもたちと接する上での支援者の心構え

- 「障害」は、本人ではなく環境によるものである
  →診断名や「問題のある子ども」として見るのではなく、一人の子どもの学習環境（物理面・教え方・カリキュラムを含む）を整え、「障害」になるものを取り除くという意識を持つ

- 子どもたちが安心して支援の場で過ごせることを第一に

② アセスメントについて

- 「アセスメント」詳細は研修4ー③,④を参照
- 外国につながりのある子どもは、言語環境、家庭環境、来日前の学習歴などの情報収集も重要
- 学習支援者は、観察におけるアセスメントを行う。
  子どもの日々の様子をよく見て、つまずきがどこにあるか把握する
- 得意なこと、好きなことなども支援に生かす

③ 学習支援方法・環境の工夫(1/2)

- 「やさしい日本語」を生かす(研修4ー⑧,⑨参照)
  →とくに、簡潔・短いフレーズ
- 情報の「視覚化」の工夫
  →ビジュアル資料、文字の大きさ調整やルビ振り
- 特別支援教育の教材・日本語教材それぞれを検討
  →ニーズに合わせて横断的に

③ 学習支援方法・環境の工夫(2/2)

- 代替ツールの使用
  →タブレット、音声読み上げ機能など
- 物理環境の調整
  →落ち着いて学習できるスペース作り
- 本人の得意・不得意を捉え、総合的な支援を
  →他者と比べる「個人間差」ではなく「個人内差」を

④ 保護者対応について

- 保護者との情報共有で用いる言語
→多言語表記の資料、やさしい日本語、通訳を入れる
- 母語を育むことの重要性
- 「発達障害」や日本の学校・進学制度の説明
- 国・家庭ごとの教育の価値観の違いへの配慮

ご視聴ありがとうございました